

# 活動ピックアップ!

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS 長岡 みんなのSDGs

長岡地域 NPO法人SST交流会  
力を合わせて自尊心を高める



「SST」とは、ソーシャルスキルズトレーニングの略称で、社会生活を送る上で必要な対人関係を築く力や自己管理能力などを養い、身に付ける練習です。私たちは、対人関係などの悩みをもつ方たちとSSTの練習を通して「できること」を増やし、自尊心を高めることを目的として活動しています。これからも、より自分らしく生きるためのヒントが得られる場を作っていきます。

12 つくる責任 つかう責任 柳醸造株式会社  
食品ロス削減を目指す味噌作り



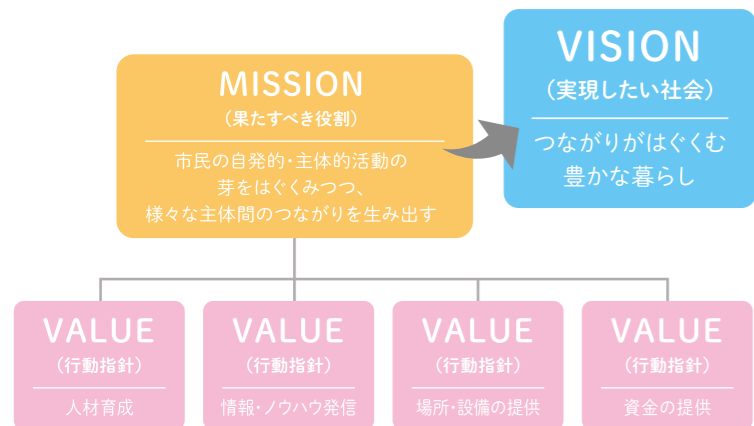
創業1887年の柳醸造株式会社は、味噌や地域で生産された野菜を使用した漬物の製造及び販売、醤油や食料品の販売をしています。2021年10月に本社店舗をリニューアルしてからは、包装資材の軽減を目指してお客さまに容器を持参していただき味噌の量り売りを導入。今後はゴミとして捨てている野菜くずの肥料化にチャレンジして、地球環境に配慮していきたいです。

## 市民活動 虎の巻

研究テーマ **団体の将来図の作り方～ビジョン編～**

いよいよ新年度が始まり、団体の将来像などを改めて考える団体さんも多いのではないのでしょうか。今回はそんな時に役立つ考え方をご紹介します!

例)長岡市の協働が目指すビジョン



ビジョンはゴール(目指す姿)を指し、自分たちが何のために活動するかを表すものです。ビジョンは団体外のさまざまな組織や個人に向けてしっかりと共有することが大切です。多くの人に共有できる課題とその原因を想定して、実現したい社会の姿をビジョンに落とし込みましょう。

### ビジョンづくりの注意点

- 壮大で抽象的にならないように、現実味があるものにする。
- 活動分野から離れすぎず、専門的になりすぎない言葉で。
- 関係団体(利害関係者や市民など)から共感が得られるものにする。

MEMO もっと詳しく知りたい方には、講座の資料と動画を共有できますのでご連絡ください。

### センターからのお知らせ

#### 長岡市未来を創る 市民活動応援補助金

長岡市の未来を考え、その実現に向けて市民団体などが主体的に取り組む公益的な事業にかかる経費の一部を補助する「長岡市未来を創る市民活動応援補助金(未来共創補助金)」、ただいま申請受付中です! やってみたい企画のある方は、構想段階でもご相談に乗りますので、まずは協働センターにお越しください。

申請方法 事業実施の3カ月前を目安に申請書を協働センターへ提出してください。補助金額 ●10万円まで:全額 ●10万円を超える部分(上限50万円※):80%

※以下の要件を備えた団体が実施し、高い公益性や波及効果などが認められ、将来自立して長岡の目玉となり得る事業については、100万円を上限に補助する場合があります。●申請日時点において3年以上の活動実績がある。●前年度の予算規模が20万円以上である。



詳しくはこちら

発行

ながおか市民協働センター 〒940-0062 長岡市大手通1丁目4番地10 シティホールプラザアオーレ長岡 西棟3F Tel. 0258-39-2020 Mail . contact@nagaokakyodo.net



+カ 知る,つながる 好きになる らこって +カ つながる ラジオ +カ 市民活動のポータルサイト コライト

配布場所 長岡市役所及び各支所、サービスセンターの他、市内図書館、コミセン、子育ての駅等、公共施設に設置しています。



知る、つながる、好きになる  
ながおか市民活動情報誌

2022  
4  
vol.112  
Take Free

## 学生×ソーシャルアクション



特集  
三浦 岳斗さん  
Technical Education Circle  
桑原 夢さん  
市民活動団体WAI!

NAGAOKA PLAYERS  
星野 洸太さん

活動ピックアップ  
NPO法人SST交流会

長岡みんなのSDGs  
柳醸造株式会社



ながおか市民協働センター

# 学生 × ソーシャルアクション

## 学生の市民活動は実践・学び・出会いの機会！



三浦 岳斗さん

長岡技術科学大学のサークル「テクニカルTechnical Education Circle(TEC)」の代表。子どもたちに科学の楽しさを伝えるため、サイエンスショーや実験教室、科学教室を開催している。



桑原 夢さん

多文化共生社会の実現を目指して活動している高校生による団体「市民活動団体WA!!」の代表。国際交流のイベントや、外国の情勢を知ることができる展示会を開催している。

3Dプリンターを使いたくてパソコン部に入部したら、そこがボランティア活動をしている部活で…「ボランティアをしたい」と思って入った訳ではないですが、それがきっかけでボランティア活動のやりがいに気づきました。

桑原さん(以下、桑原): 私は元々国際交流に興味があったのでWA!!に入りました。入る前は、学生の市民活動に関する情報が周りに全然なかったのですが、WA!!に入って色々な人に会ったことで世界が広がり学習支援のボランティアもしています。

一学校や部活動と市民活動で違うところはありますか。

三浦: 学校は勉強する場所で、市民活動は実践や体験の場というイメージです。先生の話聞いて学ぶ学校では、市民活動と比べるとどうしても受動的になってしまいます。

桑原: 市民活動には、自主性が求められますよね。部活動のように顧問の先生はいないですし、全て自分たちで決めなければいけないので。

三浦: その分、自分たちも成長できます。色々な人と接するので、メールのマナーや年上の方との接し方など社会人になってから学ぶことを学生で学んでいる気がします。

桑原: 学校や部活動とは経験できること、出会える人が違うので、市民活動を部活動と同

じように放課後活動の選択肢のひとつにしたいと思っています。

一色々な人や団体と活動していますが、市民活動を通してどのような出会いがありましたか。

桑原: 学生だとできないことが多いので色々な人に助けていただき、結果的にたくさんの出会いが生まれます。活動前は、社会人になったら就職して働くものだと思っていましたが、複数の仕事や市民活動をされている方を見てイメージが変わりました。

三浦: 自由になる時間が限られている中で、フットワーク軽く活動されている方がたくさんいて驚きます。

桑原: メンバーとの出会いを通して、自分の居場所もできました。学校で話すと「まじめだね」と言われてしまう話題も、メンバーとなら盛り上げられます。

### 学生にとって市民活動はハードルが高い？

一市民活動やボランティア活動というと社会貢献のイメージが強く、「意識の高い人がするもの」という思い込みがあるような気がします。



子ども向けの実験ショーで空気砲を披露。イベントでは、規模の問題でなかなか学校ではできない実験を扱うようにしている。

三浦: 周りの人から「えらいね」と言われることはあります。僕たちとしては、自分たちが楽しいと思っていることを参加してくれる子どもたちと共有するのが楽しいから活動しているのであって、その結果として社会に少し貢献しているというイメージです。

桑原: 私も同じです。イベントの準備など大変なこともあります。イベントで日本人の学生と留学生が楽しそうに交流しているのを見るのがうれしいです。楽しくしている活動が、結果として人の役に立っているのだと思います。

一どうすれば活動する学生が増えると思いますか？

三浦: 単純に“入り口”が少ないんだと思います。学生が活動する場所がなかったり、その情報が手に入りにくかったり。

桑原: 団体は、活動を始めたい人の受け皿になっていると思います。団体が増えれば増えるほど、活動する学生も増えるのではないのでしょうか。

三浦: 活動したいと思っても、自分で団体を立ち上げられる人ばかりではないですし、一人ひとり得手不得手があり一人ですることには限られますもんね。

### 楽しさの先につくりたい未来

一活動の先に、どのような未来を思い描いていますか。

三浦: 科学技術と生活を切り離すことのできない現代において、正しい科学の知識を身に付けてもらうことは生活を豊かにする一歩だと思います。これからも子どもたちに科学の楽しさを伝えることで、科学を好きな子どもを増やしていきたいです。

桑原: 私たちは多文化共生社会の実現を目指



2021年にWA!!が開催したクリスマスパーティーの様子。日本人と留学生合わせて40人以上が集まり、ゲームや交流を楽しんだ。

していますが、それは日本人と外国人の間に限った話ではありません。相手が日本人であろうと外国人であろうと、誰にでも思いやりをもって接する人があふれる長岡にしていきたいです。

学生生活というと「学校に行って勉強し、放課後は部活動」というイメージが強いですが、学校の外に出て活動することで社会を先取りして経験できたり、新たな出会いやつながりが生まれ、学校での学びを実践できたりするそう。そして、「誰かや社会のためにするもの」と思われがちな市民活動ですが、実際に活動している彼らには活動そのものの楽しさが動機になっているということがわかりました。まちや社会に参加する若者を増やすには、活動から得られるものと活動そのものの楽しさの両方を伝えていくことが大切なのではないのでしょうか。



# NAGAOKA ウワサのあの人にインタビュー! PLAYERS

星野 洸太 さん

24歳/蔵王の杜プレーパーク

1997年栃木県生まれ。2022年、長岡造形大学大学院修了。おもちゃコンサルタント。長岡東ロータリーアクトクラブ会長。4月から子育て支援施設の職員に。



## 「遊びの入り口」を工夫し、誰も排除しないきっかけづくりを

遊具があり使い方が示されるような従来の公園に対して、子どもたちが想像力で工夫し、遊びをつくり出すことのできる場をプレーパークと呼び、発見や創造する喜びを味わえる場であるとされています。

星野洸太さんは高校時代、地域に開かれた障がい児支援施設でアルバイト

を経験。その後、大学時代にプレーパークの思想に触れると、アルバイト先で感じた、障がいや病気の有無に関わらず誰も排除しない場づくりが、多感な子ども時代には大切であると感じるようになりました。

長岡市×長岡造形大学大学院イノベーション育成プログラム(いのプロ)※

に編入してから修了までの2年間、研究や関係構築を深めてきました。

2021年春には「蔵王の杜プレーパーク」を開設。といってもはた目から見ればただの広場です。そこで、星野さんはプレーワーカー(管理人)として、「遊びの入り口」を用意しています。「子どもたちは人見知りしがちですが、初めての遊び場では“場所見知り”をして、なかなか遊びに入れないことがあります。特に遊び方の用意されていないプレーパークではどう遊んで良いかわからない子どもも多い。まずは心の障壁を取り払う

遊びの入り口を用意することが大切です」。

遊びの入り口づくりにおいて星野さんは、あえてシャボン玉や縄跳びといった障がいの有無に関わらず楽しめる遊びを準備。最初に一緒に遊んだ子どもたちは、その後も自由な発想で分け隔てなく一緒に遊び始めるそうです。

「みんなでできることを、まずはみんなでやってみることが、誰も排除しない場づくりの入り口だと思います」。星野さんは、プレーパークをさまざまな地域に広げていきたい、と夢を語ってくれました。



子どもたちは遊びや勉強、スタッフの手伝いなど、思い思いに過ごします。

※地域おこし協力隊と大学院生を両立させた、官学連携の地域課題解決プログラム。